

副代表 吉田真澄

### ■街歩き「渋谷駅の記憶 昨日・今日・明日」

「渋谷駅の記憶」は、明治 18 年山手線の瓦葺き平屋の駅舎建設に始まった。そして明治 40 年代に玉川電車と東京市の市電が乗り入れてからの渋谷駅は、ターミナル駅として発展してきた。

その歴史は現在、副都心線の完成とともに、東横線の地下化と超高層駅ビル建設による立体都市の出現に向けて動いている。駅周辺地区の桜丘の一部も、18 号線都市計画道路整備に伴う再開発で超高層ビルに変わり、伝統木造住宅の残る街並みが消えていく。

古い写真には、様々な渋谷駅の記憶が残されている。渋谷駅のまさに真下に渋谷川が流れることを、駅を利用し、渋谷を歩くどれほどの人が知っているだろうか。私達は古い写真や資料を片手に、実際に駅施設や周辺を歩いて、暗渠となっている渋谷川を探索した。

地上の渋谷川は、地下化による東横線跡地を利用して親水公園が計画されている。現在のビルの間を流れる川を眺めながら、人々が憩う公園となる日を、初対面の一般参加者 22 人と一緒に想像し語り合った。

“トレッキングにまた参加したい！”という参加者の感想は、次の企画への励みとなり、心に刻まれた「渋谷駅の記憶」となった。



ガイド役は桜丘在住の塩田幹事

再開発される地区で記念写真